

1. 「発掘調査だより」について

今年度の村北遺跡の発掘調査が始まって2ヶ月が経ちました。7月下旬は梅雨の雨に見舞われましたが、天候の回復とともに現場を復旧しつつ調査を進めています。今月も発掘調査だよりをお届けいたします。

この「発掘調査だより」については、市ホームページ (<http://www.city.agano.niigata.jp/soshiki/gakushu/23743.html>) にも公開しています。合わせてご覧ください。

2. 調査のようす

村北遺跡は福田集落の北側にあります。前回の発掘調査だよりに紹介したように、調査区をA～D区の4つに分け、東側のC区の調査を行ってきました(写真1・2)。

C区では、縄文時代後期(約4,000年前)の土器や石器がたくさん出土しています(写真3)。写真4は、木を切るための道具である「石斧(いしおの)」になります。このような土器や石器はいくつかの地点に集中して出土する傾向が見られます。

また、土器や石器が集中する地点の周辺では、当時の人びとがつくった穴(遺構:いこう)がいくつか見つかっています。これらの遺構には、建物の柱の穴、炭を多く含んでいる浅い穴などがあります。

遺構については平面のかたちを把握したのちに、写真5のように断面からその埋没過程を調べます。この穴は建物の柱穴と考えられる遺構になります。元々はしっかりとした穴であったと考えられますが、地震によって崩れたかたちに変形してしまっています。最近実施している市内遺跡の発掘調査では、土橋北遺跡・石船戸遺跡などで同じように地震によって変形した遺構が見つかっていきます(市ホームページ「土橋北遺跡発掘調査だより7月」に詳しいことが書かれています)。

このように、遺跡で見つかる地震痕跡のデータを蓄積することによって、この地域が過去に被った地震災害のようすを知ることができ、いつ頃に地震が発生したのか知る手掛かりを得ることができるようになります。

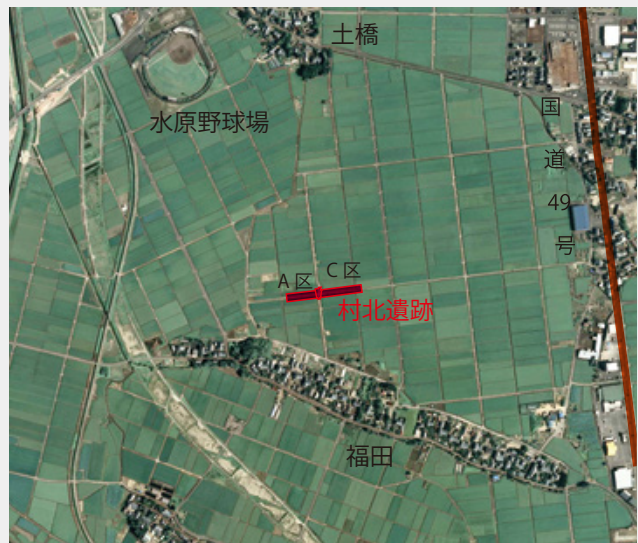


写真1 村北遺跡の位置(国土地理院2005年撮影)



写真2 7月の調査状況(C区)



写真3 出土した縄文時代後期の土器(C区)

3. これからの調査

8月からはC区の調査と並行して、西側のA区の調査を開始しました。重機による間層の除去作業をするなかで、西側に向かって地面が落ち込んでいくことがわかりました(写真6)。これは、昨年度の調査で見つかった昔の川跡が、古代(約1,000年前)以前からすでに川であった可能性を示しています。詳しいことはこれからの調査によりますが、平安時代以降に流れていた川よりも川幅が広く、約40mの大きな川であったことが想像されます。

遺跡付近では、これまで昔の川跡は見つかっていません(第1図)。新たに見つかった川跡になります。川の下に堆積する砂層からは、軽石(かるいし)が出土しています(写真7)。おそらく、約5,400年前の福島県沼沢火山(ぬまざわかざん)が噴火した際に流れてきた軽石であると思われます。

約4,000年前、川の岸辺で、縄文人たちがどのような暮らしをしていたのか、これからの調査で明らかにしていきたいと思えます。

<参考文献>

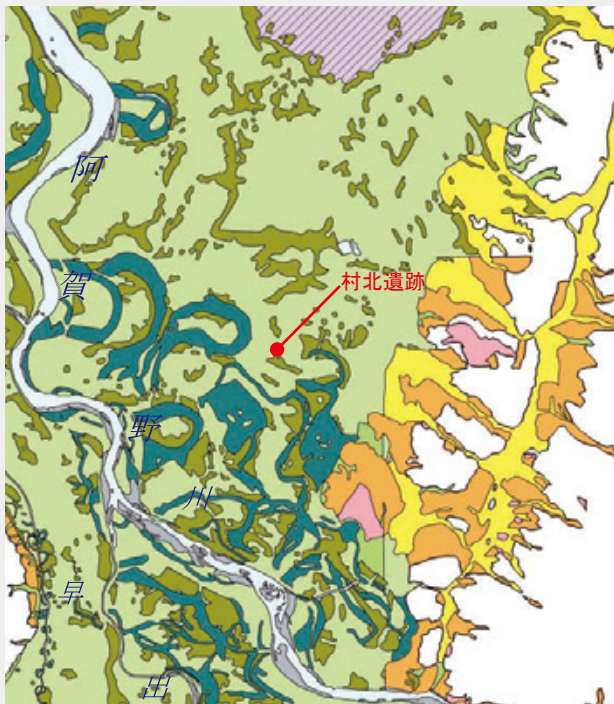
国土交通省北陸地方整備局 国土交通省国土地理院 2004『古地理で探る越後の変遷—荒川・阿賀野川・信濃川・関川・姫川—』



写真4 出土した石斧 (C区)



写真5 遺構の断面観察 (C区)



第1図 阿賀野川の旧河川跡
(国土交通省 2004 に一部加筆修正)



写真6 A区全景 (南西から)



写真7 川跡の下の砂層から出土した軽石